

(別紙様式2)

平成21年度  
高大連携科目 シラバス

科目名	尼崎学	受入可能人数	若干
大学名	聖トマス大学	担当教官名	代表 森 宣雄
		開講時間	木 曜日 2 時限(10:40 ~ 12:10)
学部名	人間文化共生学部	開講期間	10月1日 ~ 1月28日
[ 講座の目標等 ] 一期15回を2分し、前半、第2回から第8回までは土としてヨーロッパ圏を中心に、後半、第9回から第15回までは北アメリカに軸足を移し、全期間を通して諸文化を比較論的に俯瞰するために必要な知識を整理し、いわゆる欧米文化とわが国のかかわりを検証する。 第1回(岡崎・芥川):比較文化概論の開講に際して、展望と参考図書を紹介、成績評価の方法等について説明、質疑を受け付ける。 第2回「文化と文明」語の定義と歴史、第3回「生産形態と文化」、第4回:4大文明発祥と後進地域としての欧州 第5回:欧州文明の誕生と周辺文化、第6回:地中海文明と現代ヨーロッパ、第7回:欧州の拡大・分割と統合、 第8回:日本とヨーロッパ、その相違と相似(以上、担当は芥川) 第9回:世界における英語圏文化、第10回:英国における宗教改革(1) カトリックからプロテスタントへ 第11回:英国における宗教改革(2) プューリタニズムの芽生え、第12回:英国からアメリカへ その基本思想の流れ 第13回:アメリカにおける基本思想(1) プューリタニズム、第14回:アメリカにおける基本思想(2) フロンティア			
[ 講座の内容・計画等 ] 世界が一つにつながるグローバル化・ネットワーク化社会の到来により、私たちは世界中からより良い・安い商品を選ぶことができるようになった。消費者としては快適便利な世の中になった。ところが働く人間としてこれを見れば、自分の労働や商品が国際競争にさらされ安く買い叩かれる、厳しい世の中である。さらに消費者として世界的であっても生活する場所は1カ所に定めて、安心・安全な暮らしを自分で作っていかねばならないのだが、地域社会はいまグローバル化の中で崩壊の危機にさらされている。グローバル化時代においては世界を知るだけでなく、自分が暮らす地域について知り、地域社会の再生に取り組んでいかねばならないのである。 この授業では私たちが学びに集う場である尼崎の成り立ちと現在の姿、これからの課題などを、多彩なゲスト、DVD教材とともに多角的に学んだ上で、受講生が実際に町に出て、まちづくりの現場に触れ、調査・体験学習レポートをまとめる作業に取り組んでいく。			
[ テキスト・教材・参考書等 ]			
[ 履修上の注意 ] 授業は原則としてワークショップ形式で行う。教室の主人公は、あくまでも学生諸君である。共に創る学びの場で自ら進んで知識を獲得してもらいたい。担当者はそのための支援を惜しまない。			
[ 高校生へのメッセージ等 ]			